

マーケットの動き（2025年1月21日～1月24日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいでした。

週初は、20日に正式に大統領に就任したトランプ氏が就任初日に関税政策を見送ったことなどもあり、インフレへの警戒感が後退し、米国債券は買いが優勢となりました。その後、カナダおよびメキシコに対して25%の関税を課す旨の発言があるとインフレ再燃への懸念などから債券は売られ、米国長期金利は前週末比でほぼ横ばいで週を終えました。

欧州国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

投資環境見通し（2025年1月）

長期金利は、米国ではレンジ内で推移、欧州（ドイツ）では低下方向

米国：FRB（米国連邦準備制度理事会）は投資家の予想通り利下げを決定しましたが、FOMC（米国連邦公開市場委員会）声明文においては今後の利下げペースの鈍化も示しました。長期金利は、次期政権下での財政悪化やインフレ再燃が懸念される一方、実質金利上昇や次期政権による通商政策や移民規制を受けた景気の下振れも意識される中、レンジ内で推移するとみています。

欧州：経済関係の強い中国の景気減速やドイツをはじめとした各国の経済成長が下振れするとの見方に加え、ECB（欧州中央銀行）の利下げを継続する姿勢を背景に、ドイツ長期金利は低下するとみています。

	1月24日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.62	0.01	0.03	0.33	0.44
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	609.43	0.74%	▲0.68%	1.63%	7.25%

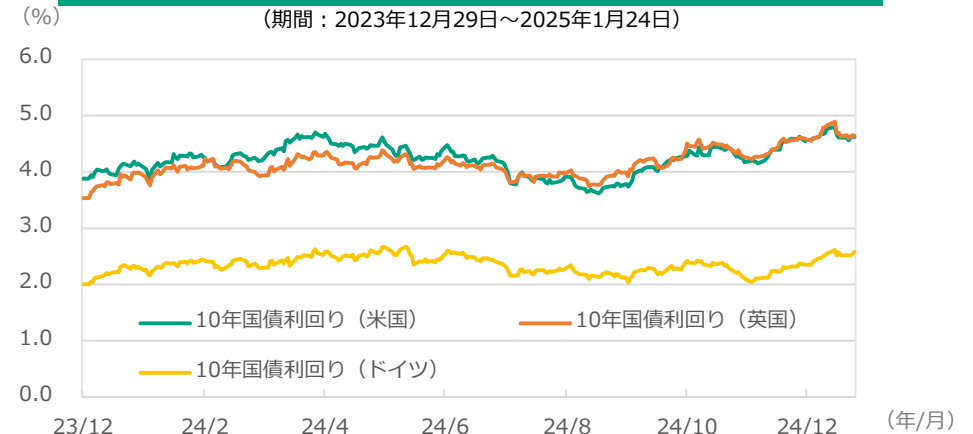
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202501_outlook.pdf

主要国国債利回りの推移

（期間：2023年12月29日～2025年1月24日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2023年12月29日～2025年1月24日）



※2023年12月29日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>